

鹿児島県総合教育センター

平成30年度長期研修研究報告書

研 究 主 題

児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する
道徳科授業の在り方

—各教科等との関連を図り、ねらいに迫るための話合いの工夫を通して—

薩摩川内市立水引小学校

教 諭 田 村 敏 郎

【 目 次 】

I 研究主題設定の理由	1
II 研究の構想	
1 研究のねらい	2
2 研究の仮説	2
3 研究の計画	2
III 研究の実際	
1 研究主題についての基本的な考え方	2
(1) 主題について	2
(2) 副題について	3
2 実態調査の結果と考察	3
(1) 実態調査の結果	3
(2) 実態調査の考察	4
3 本研究で目指す児童の姿と道徳科授業	4
(1) 本研究で目指す児童の姿	4
(2) 本研究で目指す道徳科授業	4
4 各教科等との関連を図った道徳科授業	5
(1) 道徳教育全体計画の別葉の改善	5
(2) 各教科等との関連を図った道徳科の学習活動	7
(3) 明確な指導観に基づく道徳科の授業構想	12
5 ねらいに迫るための話合いの工夫	13
(1) 道徳科授業のねらいについて	13
(2) 道徳科における話合いの意義	14
(3) 具体的な話合いの工夫	14
(4) 授業での実践	18
(5) 話合いを通じた児童の変容の見取り	19
6 検証授業による研究の検証	20
(1) 検証授業Ⅰについて	20
(2) 検証授業Ⅱについて	23
IV 研究のまとめ	
1 研究の成果	25
2 今後の課題	25

【参考文献】

【研究の概要】

I 研究主題設定の理由

グローバル化や科学技術の進歩など社会の変化は加速度を増し、予測が困難な状況になってきている。道徳教育は、そのような社会の変化に対応し、その形成者として多様な価値観をもつ人と協働して生きていくことができる人間を育成する上でも重要な役割をもっている。それは、道徳教育が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としているからである。その中でも道徳科は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合する要としての役割を担っている。これからの時代を生きていく一人一人の児童が、日常生活の様々な場面において、今後出会う道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、よりよい生き方を考え続ける道徳科の授業改善が求められている。各教科等での学習を手掛かりに、道徳的価値のよさについて考え、議論することを通して、児童が自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできる道徳科の授業にしていくことが大切である。

本校の学校教育目標は「知的好奇心と思いやりの心を持ち、新たな時代を生き抜くたくましい児童の育成」である。その具現化のために、道徳教育に関しては「道徳科の授業を要にした心に響く道徳教育の推進」を努力点として掲げており、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進、各教科等との関連を図った道徳科の指導法の工夫・改善を具体的方策にして取り組んでいる。特に、毎月1日の「いじめのない学校づくりの日」の設定や「いじめ・命を考える授業」など、道徳科の授業と関連付けて指導する教育活動も行われている。

しかし、各教科での学習や日常生活の体験を基にして、道徳的価値についての考えを深めたり広げたりしている児童の様子はあまり見られず、教師も各教科等での学習を道徳科に生かすという意識が低いという実態がある。また、話し合いをする児童は、自分の考えを述べるだけにとどまり、お互いの意見に問い返したり、自分の考えと比較したりしている様子はあまり見られない。教師は道徳の時間に話し合いを取り入れようという意識はあるが、何について話し合いをさせるのかが明確ではないという実態がある。これらの要因として、次の二点が考えられる。

第一に、教育活動全体を通じて行う道徳教育を意識して行っても、それが単発で道徳科の授業とつながりにくいということである。各教科等と道徳科授業のつながりを意識できるように、全体計画の別葉を作成しているが、その活用が図られていないという現状もある。

第二に、道徳科の授業が各教科等の学習内容を、補充するのか深化するのか統合するのか、その関係性が明確ではなく、それに伴ってねらいや児童が話し合うための中心発問が検討されないまま道徳科の授業が展開されていたことである。授業を構想する際に指導観を明確にし、各教科等との関連を踏まえたねらいや話し合うための中心発問が検討され、設定されれば、児童は道徳科で学ぶ道徳的価値のよさを理解するとともに、自らの成長を実感でき、教師も児童の姿から変容を見取ることができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳科授業の在り方を研究していくことにした。そのために、まず、本校の実態を基に、目指す児童の姿と授業像について明らかにする。次に、道徳教育全体計画の別葉を見直し、各教科等と道徳科の学習との関連を明らかにした上で、補充、深化、統合それぞれの場合の道徳科授業の在り方を検討する。そして、ねらいに迫るための話し合いの工夫について明らかにする。なお、研究を進めるに当たっては、自分自身を含めた本校職員の指導における課題意識と、「集団や社会との関わりに関すること」の児童生徒の状況について肯定的な回答の割合が他の視点と比較しても低いという「道徳教育実施状況調査」（平成24年度文部科学省）の結果から、視点C「主として集団や社会との関わりに関すること」を取り上げる。

このような研究を通して、児童は道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感することができるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

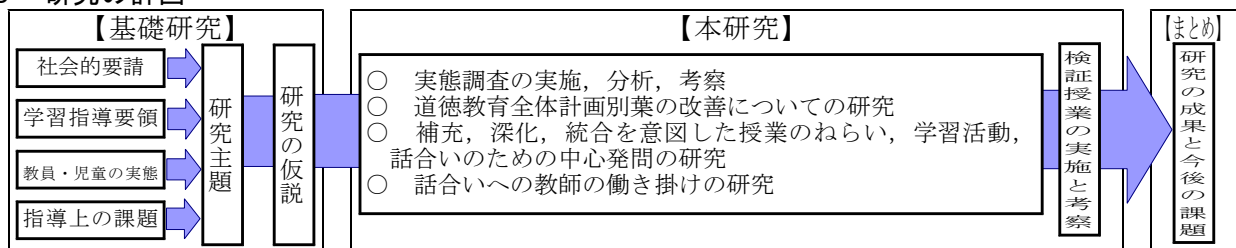
1 研究のねらい

- (1) 児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳科授業について明らかにする。
- (2) 各教科等との関連を図った授業について明らかにする。
- (3) ねらいに迫るための話合いの工夫について明らかにする。
- (4) 検証授業を通して、成果と課題を明らかにし、今後の学習や指導に生かしていく。

2 研究の仮説

各教科等との関連を図った授業を構想し、ねらいに迫るための話合いの工夫をすれば、児童は道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感することができるのではないかと。

3 研究の計画



III 研究の実際

1 研究主題についての基本的な考え方

(1) 主題について

ア 「道徳的価値のよさを理解する」について

「道徳的価値のよさを理解する」とは、道徳的価値の意義や大切さ、更なる成長へつながる視点、新たな課題について考えを深めることであると捉えた。

道徳的価値とは、人間としての在り方や生き方の礎となるものであり、他者とよりよく生きていくために学ぶことが必要とされるものである。児童が将来、様々な問題に出会ったときに、自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的实践ができるようにするために、道徳的価値のよさを理解することが必要である。具体的には、図1のように、道徳的価値がなぜ大切なのか、どのようなよさがあるのかを理解すること、更に知りたいという意欲をもつこと、これからの生活において、いつでも、どこでも、誰に対しても同じように大切なのかということについて考えを深めることであるとする。

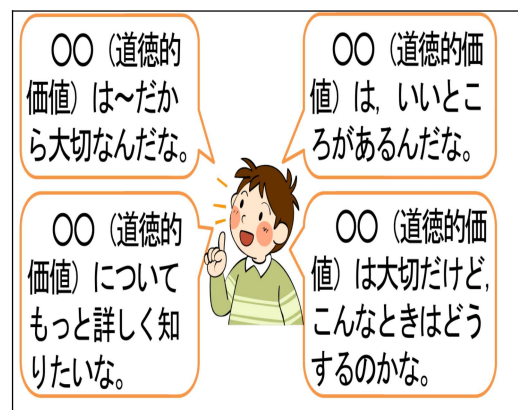


図1 道徳的価値のよさを理解する児童の姿

イ 「自らの成長を実感する」について

「自らの成長を実感する」とは、児童が道徳科授業を通して、各教科等の学習とのつながりを意識すること、新たな考え方の獲得や初めにもっていた考え方に自信をもつなど自分の変容を自覚すること、これからの生活に向けての目標や課題をもち続けていくことであると捉えた。

実感とは、現実のものから得る感じ、実際に接しているような感じのことである。道徳科授業で考えると、道徳的価値についての学習と、児童のこれまでの体験や各教科等で学習し

たことが実際に接するようにつながることであると捉えた。具体的には図2のように、道徳科授業を通して、各教科等の学習とのつながりに気付いたり、道徳的価値のよさの理解がより深まったりすることである。また、児童のこれからの生活にもつながり、よりよく生きるための目標や新たな考え、課題を見付けることになると考える。このような児童の気付きを教師が認めたり、称賛したりして価値付けることによって、児童は自らの成長を実感できると考える。

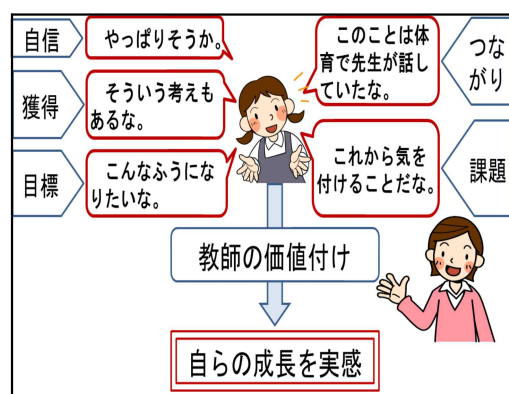


図2 自らの成長を実感するイメージ

(2) 副題について

ア 「各教科等との関連を図る」について

「各教科等との関連を図る」とは、児童が各教科等での学習や体験を基に道徳的価値について考えること、道徳科授業で考えたことを各教科等での学習や児童の生活でも実践すること、道徳科授業で新たに生じた課題について考え続けていくことと捉えた。

児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感するための手立ての一つとして、各教科等との関連を図ることが必要である。児童は各教科等での学習や様々な体験を通して価値観を形成し、その価値観を基に、道徳科授業において道徳的価値について考えを深める。そのため、各教科等の学習でも教師は意図的に道徳的価値に関わる働き掛けをしていく必要がある。また、道徳科は学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を担っている。各教科等での道徳教育では取り扱う機会が十分でない場合や、児童の理解が不十分だった場合に、内容項目に関わる指導を補うこと（補充）や、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること（深化）、内容項目相互の関連を捉え直したり発展させたりすること（統合）など、道徳科授業の位置付けにも留意する必要がある。さらに、道徳科で考えたことを振り返って実践に生かそうとしたり、新たに感じた課題について考え続けていながら日常生活を送ったりすることができるような道徳科授業にする必要があると考える。

イ 「ねらいに迫る話合い」について

「ねらいに迫る話合い」とは、何について話し合えばよいかを、明確な指導観を基に設定すること、話し合ったことを視覚化してねらいとする道徳的価値について児童に考えさせることと捉えた。

児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感するためのもう一つの手立てとして、本時のねらいが適切に設定され、そのねらいに迫るために児童が何に気付けばよいか、そのために何を話し合えばよいかを明らかにした中心発問にする必要があると考えた。その際は、ねらいとする道徳的価値に対する指導者の捉え方、道徳的価値に関する予想される児童の捉え方やこれまでの学習状況、それらを踏まえて教材をどのように活用するかを検討して中心発問を設定する必要がある。

また、実際の道徳科授業においては、ねらいとする道徳的価値について児童が考えを深めることができるように、話合いを活性化させる言葉掛けを身に付けさせたり、考えたことや話し合ったことを視覚化したりする必要があると考える。

2 実態調査の結果と考察

(1) 実態調査の結果

児童が道徳科授業での話合いの意義や効果、各教科等の学習との関連をどの程度意識しているのかを調査した（平成30年6月8日薩摩川内市立水引小学校4年生20人、教員8人 調査方法：質問紙法）。

話し合いの意義について、「話し合っただけで新しい発見をしたか」、「道徳科授業で、話し合いをしてよかったか」については約8割の児童が肯定的に答えている。反面、各教科等の学習との関連や生活とのつながりについては、肯定的な回答は5割前後となった(図3)。また、「何となく分かっていたことが道徳科授業を通してはっきりした、新しい発見をした」と答えた児童の多くは、「話し合いをしてよかったか」を肯定的に答えている割合が高いことも明らかになった。

教員の実態調査では、ねらいを意識して道徳科授業を行っているが、「道徳科授業を通して児童の変容や成長が感じられているか」、「児童が話し合いで新しい発見をしていると感じているか」、教員自身が「全体計画の別業を生かした道徳科授業の指導ができていると思うか」については、肯定的な回答の割合が低かった(図4)。

(2) 実態調査の考察

実態調査から、話し合いに関しては児童と教員の意識には隔たりがあり、児童は話し合いを肯定的に捉えているが、教員は道徳科授業において、話し合いを十分生かした授業づくりがなされていないと感じていることが分かった。これらのことから、道徳教育全体計画の別業を活用して各教科等の学習でも意識して道徳教育を行い、その学びを振り返る場を道徳科授業で意図的に設定することが必要であると考えられる。また本時のねらいを明確にし、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるような話し合いの工夫をすることで、児童は道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感するとともに、その過程で教員も、児童の変容や成長を感じることも多くなると考える。

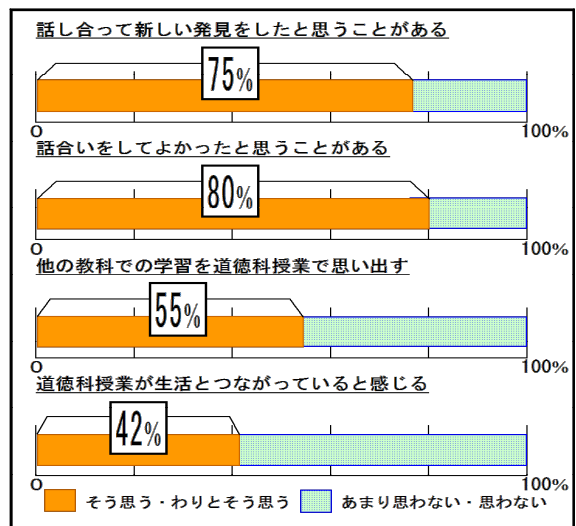


図3 児童の意識調査結果

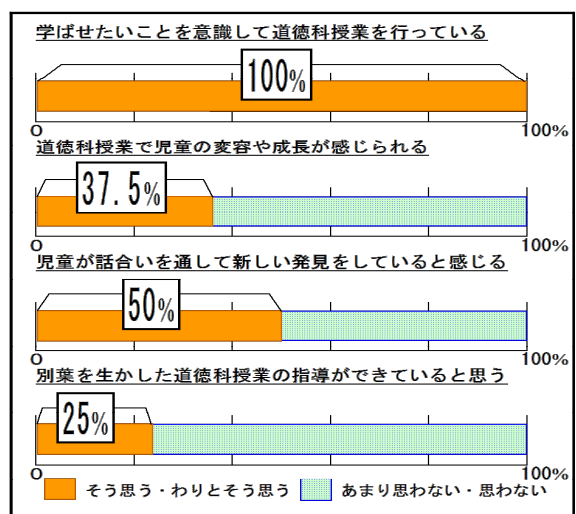


図4 教員の意識調査結果

3 本研究で目指す児童の姿と道徳科授業

(1) 本研究で目指す児童の姿

研究主題の捉えと、実態調査の結果を踏まえ、本研究で目指す児童の姿を次のように捉えた。

- ◇ 各教科等と道徳科授業を結び付けたり、生活に生かしたりする児童
- ◇ 道徳的価値の意義について、自分や他者、集団や社会にとってどのようなよさがあるかを多面的・多角的に考える児童
- ◇ 話し合いを通して、初めにもっていた自分の考えにより自信をもったり、他者の考えを新たに受け入れたりして自分自身の変容を実感する児童

(2) 本研究で目指す道徳科授業

本研究主題である「道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳授業を図5のように考え、研究実践を進めた。

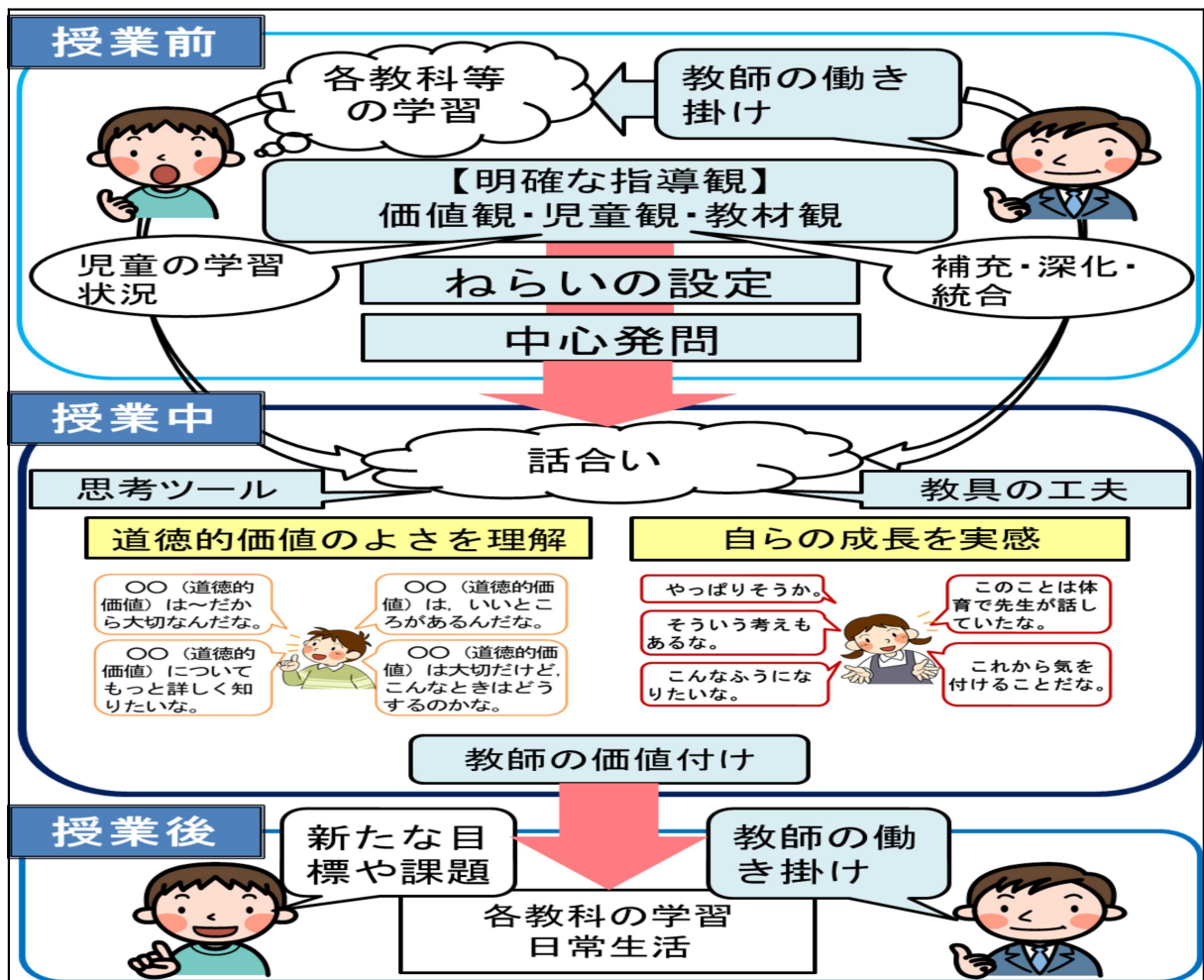


図5 本研究で目指す道徳科授業

授業前	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各教科等でも道徳的価値に関わる意図的な働き掛けを行い、児童に意識させる。 ◇ 本時の位置付けについて児童の実態から補充か、深化か、統合かを明らかにし、価値観、教材観と合わせて指導観を明確にする。 ◇ 明確な指導観の下、ねらいと中心発問を設定する。
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 中心発問についての話し合いを活性化するための手立てとして、話し合いの進め方を身に付けさせたり、話し合ったことを視覚化したりする。 ◇ 始めと終わりのワークシート記述の比較をさせることによって、児童が自らの成長を実感できるようにする。 ◇ 児童の気付きについて価値付ける。
授業後	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 道徳的価値に関わる働き掛けを児童に行い、これからの生活についての目標や課題をもち続けさせていくようにする。

4 各教科等との関連を図った道徳科授業

(1) 道徳教育全体計画の別葉の改善

本校では、道徳教育全体計画の別葉は平成26年度末に作成されている。しかし、教員の実態調査からも明らかになったように、教育活動全体を通じた道徳教育と、その要としての道徳科授業を充実させるために、十分活用されているとはいえなかった。そこで、より実効性のある別葉の在り方について検討し、道徳科授業と各教科等の学習内容を往還して指導できるように、つながりが分かる「往還シート」を作成した(図6、図7)。

月	内容項目	教材名	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	体育	特別活動
11	個性の伸長	ばんざい大きな花まる	・新聞を作ろう ・わたしの研究レポート	・特色のある地域とふるさとのくらし			・拍のリズムを感じ取ろう ・旋律の特徴を感じ取ろう	・ゴーゴードリームカー ・はってすって見付けて	・育ちゆくからだわたし	・全校集会 ・校区総合文化祭 ・持久走大会
	希望と勇氣、努力と強い意志	へこたれないきせきのりんご	・きょうみをもったところを發表しよう ・新聞を作ろう ・自分の考えをつたえるためには	・火事からくらしを守る ・事件や事故からくらしを守る ・水はどこから	・大きい数 ・折れ線グラフ ・面積 ・しりょうの整理	・動物の体のつくりと運動 ・天気と気温 ・電気のはたらき ・水の水がたどる温度	・明るい歌声を響かせよう ・泊の流れに乗ってリズムを感じ取ろう			・運動会 ・校区総合運動会 ・持久走大会
12	公正、公平、社会正義	わたしにはゆめがある	・一つの花 ・だれもがかかわり合えるように ・つきつね ・初音のふる日					・見つけたよめしたよ ・光とかげから生まれる	・楽しい運動会	・運動会 ・秋の一日遠足 ・校区総合運動会 ・人権集会
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心	たな田が変身	・春の風景 ・夏 ・秋の風景 ・冬の風景	・世界とつながるわたしたちの県	・大きい数 ・そろばん ・直方体と立方体		・子供の世界 ・日本の音楽に親しもう			・運動会 ・校区総合文化祭

※ 重点的に指導したい内容項目について、全体計画の別葉を参考に往還シートを作成する。

現在の別葉

往還シート

月	教科	単元・題材	内容項目に関連したねらい	内容項目に関連した言葉掛け、関わり方
9	国語	調べたことを整理して発表しよう ○ <u>だれもがかかわり合えるように</u>	障害のある人への理解やお互い に支え合う態度を育てる。	◇ 障害のある人も安心して暮らせる施設にはどんなもの がありますか。 ◇ 施設がどのような考えの下で作られたのか。 ◇ 障害のある人はどんな思いで暮らしているのでしょうか

※ 関連のある単元や題材を取り上げ、内容項目に関連するねらい、働き掛けを明記する。また、日常的に意識して働き掛けを行うようにする。

図6 往還シートの作成の仕方

図6は往還シートの作成について示したものである。現在の別葉は関連する単元や題材については書かれているが具体的な指導の時期や指導内容は述べられていないので、活用が難しい面があった。そこで、往還シートでは、現在の別葉を生かして、道徳科授業と同時期に学習する単元や題材を抽出し、時期ごとに明記するようにした。

伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 第1学年

○ 郷土愛を意識させる日常的な学習活動

【生活習慣】 【学習態度】	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育
・地域行事への参加 ・地域の人々との触れ合い ・遊び場やよいところの紹介	・昔から伝わる言葉 ・季節ごとの地域の風景 ・漢字指導	・昔から伝わる位 ・昔から伝わる計算方法	・地域探検や人材活用等での触れ合い	・昔から伝わる音楽を表現、鑑賞 ・地域の人材や素材の活用 ・伝統的な作品の鑑賞	・昔から伝わる製作技術 ・地域の人材や素材の活用 ・伝統的な作品の鑑賞	・校内や学校周辺の危険な箇所等の確認
学級活動	児童会	学校行事	ふるコミュ	創意		
・地域の人たちとの触れ合い ・地域の素材を生かした活動	・校区や郷土のよさの紹介	・地域の素材や人材の活用と触れ合い	・地域の素材や人材の活用と触れ合い	・あいさつや英語表現での地域の人との会話		

※ 教科にかかわらず日常的に指導する学習活動、生活の習慣、態度に関することを明記する。

※ 内容項目を日常的に意識させ、道徳科授業で振り返って考えることができるようにするために、各教科等の授業で配慮することについて明記する。

○ 各教科等で重点的に指導する内容（2学期）

月	教科	単元・題材	内容項目に関連したねらい	内容項目に関連した働き掛け
9	国語	はなそうきこう ○ なつやすみのことをはなそう	・夏休みの遊びなどから、家の周りや地域のよさに気付く。	◇ 家の周りや地域でどんな楽しいことがありましたか。 ◇ お友達に教えてあげたい場所がありますか。
10	生活	○ あきともどもだちになろう	・学校周辺や地域にある生き物や植物などに触れ合い、そのよさに気付く。 例「ぼくの町のイチヨウの木」 「学校前の川にいるメダカ」など	◇ 学校の周りや地域でみんなに教えたい生き物や植物がいますか。 ◇ 秋になると学校の周りはどのように変わりますか。
	音楽	こころのうた ○ 「ひのまる」	・日本の旗について知り、国や郷土への愛着を深める。	◇ 日本の旗を知っていますか。どんな旗ですか。 ◇ 国にはそれぞれ旗があって大切にしているのですね。
11	国語	ほんはともだち ○ むかしばなしがいっぱい	・昔から伝わる話を読んで、国や郷土への親しみをもつ。	◇ 日本に昔から伝わっているお話にはどんなお話がありますか。 ◇ どんなお話が好きですか。
12	学活	○ もうすぐふゆやすみ	・冬休みの地域での活動や人との触れ合いを通して、郷土への愛着を深める。	◇ 冬休みにどんなことをして遊びますか。 ◇ 学校の周りにはどんな楽しい場所がありますか。

【道徳科】
11月
「大すき、わたしたちの町」
(主な学習活動)
○ 自分の町の好きなところや自慢したいところを話し合う。

(各教科等での実践化、日常的な問い掛け)
・地域の好きなところをもっと見付けない。
・地域が好きになるのは、どんなときかな。
・どうして地域のことを考えるとうれしくなるのかな。
・水引じやなくてもいいんじゃないの。

※ 内容項目に関連した働き掛けを明記して、各教科等でも内容項目に関わる意識付けを行う。

※ 道徳科授業での中心となる学習活動、授業後にも考え続ける視点を示す。

図7 往還シートの実際と留意点

往還シートを作成するに当たって留意した点は、より活用しやすい往還シートに更新していくために、**図7**のように各教科等の学習を進める際に内容項目に関連した働き掛けや教師の働き掛けを明記したことである。日々の学習の中で、教師はこの往還シートを基にして児童に関わったり授業中に言葉を掛けたりする。教師の関わりや掛けた言葉の一つ一つが児童の心に残り、内容項目の学習とつながったときに、児童は道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感することができる考えた。

(2) 各教科等との関連を図った道徳科の学習活動

道徳科授業が各教科等で行う道徳教育の要の時間としての役割を發揮するためには、道徳教育全体計画の別葉と**図7**の往還シートを参考に、これまでの指導と児童の学習状況による実態を踏まえることが大切である。そこで、各教科等で学習した道徳的価値を補充、深化、統合するそれぞれの場合にどのようなことに重点を置いて指導すればよいかを整理した。道徳科授業は、教師の指導観に基づいて構想されるので多様であるが、それぞれの場合で指導の方向性をもっておくことは重要である。

ア 「補充」を意図した学習例

道徳科授業は、学校の様々な教育活動の中で考える機会を得られにくい道徳的価値についての指導を補充する役割をもつ。また、各教科等で指導をしたが的確な教材提示や実態に沿った指導を十分することができず、道徳的な理解を促すことができなかつた場合にも補う必要がある。つまり、各教科等で指導する機会が少ないときや、児童が十分理解できなかったときにも、「意識したことがないこと」や「何となく分かっていること」を明確にする学習が必要である。そこで道徳科授業では、**図8**のように教材を通して登場人物の心情を自分自身との関わりで考えることによって、道徳的価値の意義や大切さの理由について気付かせる事が有効であると考えている。



図8 補充の学習のイメージ

補充を意図した学習例（下線は特に意識したい学習活動）	
各教科等との関連	各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でなかったり、十分に理解されなかったりした内容項目の指導を補う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 国際理解に関わる学習が英語活動しか計画されていないので、道徳科で補いたい。 </div>
中心となる学習	○ これまで知らなかったことや曖昧だったことを知り、これからの生き方を考える。
学習過程	導入 ○ 各教科等での学習や、これまでの体験から本時の学習を焦点化し、問題意識を高める。 ○ 高まった問題意識をめあてとして設定する。
	展開前段 ○ <u>登場人物の心情を話し合う。</u> ・ 登場人物の弱さや迷いの共感（人間理解） ・ 望ましい行為が実現できた理由（価値理解） ・ 実現するために大切にされた心情（価値理解）
	展開後段 ○ <u>今日の学習で考えたことや、これからの生活に生かせそうなこと</u> <u>について考える。</u> （他者理解）
	終末 ○ 学習したことを振り返り、実践意欲を高める。

【補充を意図した学習の実践例】

第2学年 国際理解, 国際親善 教材名「いつてみたいな」

	主な学習活動	教師の働き掛けと授業の実際
導 入	1 外国のことについて知っていることを出し合う。	○ 知っていることを多く出し合わせることで本時の学習への意欲を高める。 外国の人や外国のことについて知っていることにはどんなことがありますか。 ・ ALTの先生と勉強をしました。 ・ 昨日食べたハンバーガーは外国の食べ物だと思います。
	2 本時で考えたい問題について話し合う。 がいこくのことをしるためにはどんなきもちがたいせつだろう。	○ 食べ物や生活の仕方など、日本と外国ではいろいろな違いがありそうですね。 ○ 生活の中でも気が付いていないものも多くあることから、共通の問題意識をもつことができるようにする。
展 開 前 段	3 教材を読んで、主人公の心情を中心に話し合う。	○ 登場人物やあらすじについて簡単に知らせ、教材の内容をある程度理解させておく。 ○ 楽しみだけど、少し不安もある私の思いに共感させる。
	(1) 国際交流フェスティバルに行くことになった私の気持ち。	○ 国際交流フェスティバルに行くことになったわたしはどんな気持ちだろう。 ・ 楽しみだけど、ちょっとはずかしい。 ・ どんなことを話そう。 ・ なかよくなれるかな。
	(2) いろいろな国の話を聞いた私の気持ち。	○ いろいろな国の話を聞いたわたしはどんな気持ちになったでしょう。 ・ 話ができてよかった。 ・ 安心した。 ・ 国によっていろいろな違いがあるんだな。
展 開 後 段	(3) 様々な国に行ってみたいと思った私の気持ちについて、子供同士で意見交換をする。	○ グループで話し合わせながら多様な考えに触れることができるようにする。 いろいろな国に行ってみたいと思うようになった私の気持ちを考えましょう。どうしてそう思ったかも考えてみてください。 ・ 外国のことをもっと知りたい。 ・ もっと仲良くなりたい。 ・ 日本のことも教えてあげたい。
	4 学んだことを振り返り、今日の学習で考えたことを発表し合う。	○ どんな考えをもったかを理由とともに考えさせる。 ○ 今まで気が付かなかったことや初めて知ったこと、今日の学習で考えたことを発表させる。 今日は外国のことを知るためにはどんな気持ちが必要かを考えました。みなさんはどんな気持ちになりましたか。 ・ 国によっていろいろな違いがあるんだな。 ・ 違いを教え合うとうれしい気持ちになるな。 ・ 日本のことももっと知ってほしいな。
終 末	5 世界の絵日記を見てこれからも他国の人々や文化に親しもうとする気持ちを高める。	・ 外国の人でも日本の人と同じように勉強していることを知り、より親しみの気持ちをもてるようにする。

イ 「深化」を意図した学習例

深化とは、道徳科や各教科等での学習において捉えた道徳的価値について、そのよさや意義、困難さ、多様さについてより深く考えることである。これまでの学習等で考えた道徳的価値について、他の考えはないか、今自分の中にある捉え方でいいのかということについて考える学習も必要である。そこで、**図9**のように道徳的価値の意義について考えさせ、友達との話合いを通して、道徳的価値には様々な意義が含まれているということに気付かせる。その中で、今まで気付かなかった考えを獲得したり、「これでよかったんだ」と自分の考え方に自信をもったりすることで考えをより深めることが期待できる。

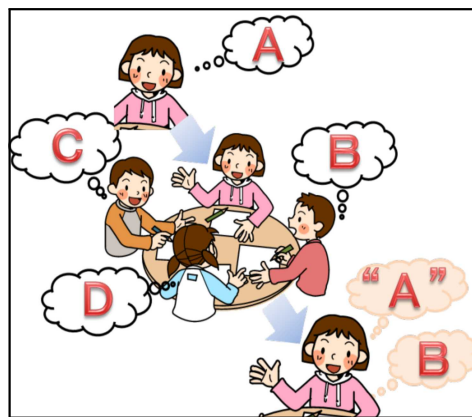


図9 深化の学習のイメージ

深化を意図した学習例（下線は特に意識したい学習活動）	
各教科等との関連	<p>児童の実態等を踏まえて道徳的価値の意義などをじっくり考え、深める指導を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>英語活動や音楽で他国の文化に親しんでいる。更にそのよさに目を向けさせたい。</p> </div>
中心となる学習	<p>○ 様々な価値観から自分が大切にしたい考えを取り込み、これからの生き方を考える。</p>
学習過程	<p>導入</p> <p>○ 各教科等での学習や、これまでの体験から本時の学習を焦点化し、問題意識を高める。</p> <p>○ 高まった問題意識をめあてとして設定する。</p>
	<p>展開前段</p> <p>○ <u>登場人物の行動から道徳的価値の意義について話し合う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜこのような行為ができたのか（価値理解）（人間理解） ・ この行為にはどんなよさがあるのか（価値理解）
	<p>展開後段</p> <p>○ <u>話し合った内容を基に、これからの生活に取り入れたい考えとその理由について考える。</u>（他者理解）</p>
	<p>終末</p> <p>○ 学習したことを振り返り、実践意欲を高める。</p>

【深化を意図した学習の実践例】

第3学年 公正、公平、社会正義 教材名「パラリンピックに願いをこめて」

	主な学習活動	教師の働き掛けと授業の実際
導入	<p>1 これまでの生活で障害のある人との関わりについて想起する。</p>	<p>○ これまでの経験を多く出し合わせることで本時の学習への意欲を高める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>これまで、体の不自由な人と一緒に何かしたことにばどんなことがありましたか。どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手伝ってあげた。 ・ 手を引いてあげた。 ・ 困っているみたいだから助けたい。 ・ 何かしてあげたい。 </div> <p>○ 児童の発言を板書に残し、後で振り返ることができるようにする。</p>
	<p>2 本時で考えたい問題について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>障害のある人とどんな気持ちで接してあげればいいだろう。</p> </div>	<p>○ 相手の立場に立つと、気が付いていないことも多くあることから、共通の問題意識をもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>みんなの優しい気持ちはとても分かりました。では、障害のある人はどんな気持ちなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手伝ってくれてうれしい。 ・ 助かった。 ・ 自分でできることはやりたい。 ・ 一緒にしたい。 </div>

展 開 前 段	3 教材を読んで、主人公の心情や行動の背景について話し合う。	○ 登場人物やあらすじについて簡単に知らせ、教材の内容をある程度理解させておく。
	(1) 主人公はどんな気持ちでパラリンピックに出場したのか。	○ 障害を乗り越えようとする主人公の強さと周囲の人の思いの違いにも着目させる。 主人公はどんな気持ちでパラリンピックに出場したのだろうか。 ・ みんな頑張っているから自分も頑張ろう。 ・ 足の悪さに負けない。 ・ ちゃんとできるところをみせよう。 また、周りの人はそれに対してどう思っていたか。 ・ 無理しなくていいのに。 ・ 何か手伝えることはないか。
展 開 後 段	(2) 障害のある人とないない人の心の溝はどんな気持ちがあれば埋められるか。	○ グループで話し合わせながら多様な考えに触れることができるようにする。 障害のある人とないない人の心の溝はどんな気持ちがあれば埋められると思いますか。グループで話し合ってみましょう。 ・ 助け合おうという気持ちが必要。 ・ 元気な気持ち。 ・ 生活しやすくすること。 ・ 優しい気持ち。 ・ 相手に気持ちを向けること。
	4 話し合ったことを振り返り、自分の中に取り入れたい考えとその理由を話し合う。	○ いいなと思った考えとその理由を書かせる。 今日の話し合いでたくさんの考えが出ました。この中からこれからは生かしたい考えを見つけてその理由も考えましょう。 ・ 「助け合いたい」がいい。それぞれ助け合って元気になるから。 ・ 「気持ちを向ける」を生かしたい。もっと人に優しくしたいから。 ・ 「助けたい」という気持ち。みんなが困っている人を助けたらみんながうれしくなる。 ・ 「元気な気持ち」がいい。障害のある人も自分たちも元気になるといいと思う。
終 末	5 学習を通して感じたことや考えたことについて話し合う。	○ 今まで気が付かなかったことや初めて知ったこと、今日の学習で考えたことを発表させる。 ○ 障害のある人に対してより親しみの気持ちをもてるようにする。

ウ 「統合」を意図した学習例

統合とは、各教科等での道徳的価値についての学習を、つなげて考えたり、新たな考え方を生み出したりすることである。図10のように各教科等で学習してきたことを、共通する道徳的価値の下でそれぞれの学習をまとまりとして捉えることができるような学習を進める。具体的には、登場人物の心情や行動から道徳的価値について考えさせた上で、自分自身のこれまでの学習や体験等から、登場人物と同じような考えや行動を想起し、同じ道徳的価値でつながっているものなのだという事に気付かせていくようにする。

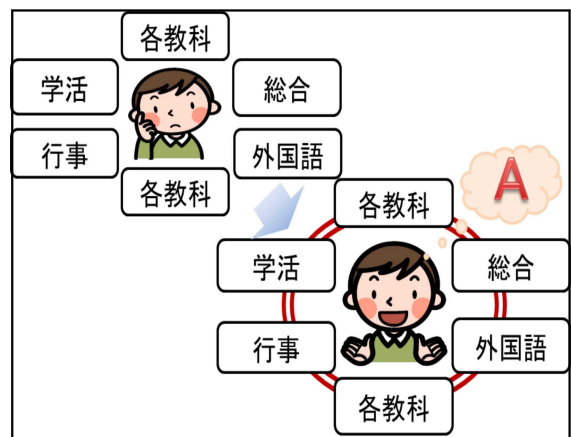



図10 統合の学習のイメージ

統合を意図した学習例（下線は特に意識したい学習活動）		
各教科等との 関連	各教科等の学習での道徳的価値をつな げて考える。 音楽科、社会科での学 習をまとめて、それぞ れの国が自国の文化に愛着 や誇りをもっていること を考えさせたい。 	
中心となる学習	○ 道徳的価値をつなげ、これからの生き方を考える。	
学 習 過 程	導入	○ 各教科等での学習を踏まえ、本時の学習を焦点化し、問題意識を高める。 ○ 高まった問題意識をめあてとして設定する。
	展開前段	○ 登場人物の行動から道徳的価値の大切さについて知る。 ・ この登場人物の行動の大切なところは何か（価値理解） ・ 登場人物と同じような経験はなかったか（価値理解）
	展開後段	○ 学習した道徳的価値を、これまでの生活や学習のどの場面で考えたことがあったかを振り返る。（人間理解）
	終末	○ 学習したことを振り返り、実践意欲を高める。

【統合を意図した学習の実践例】

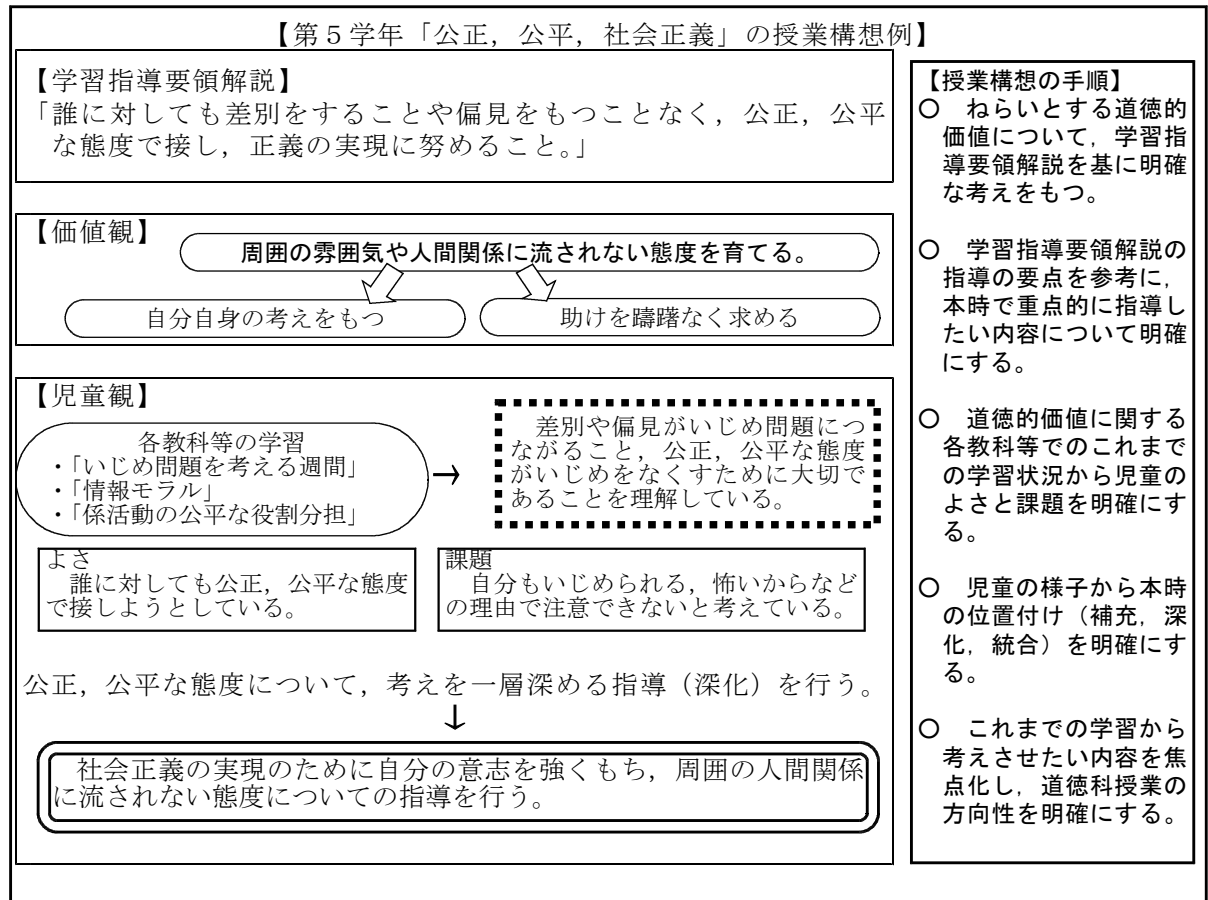
第6学年 国際理解，国際親善 教材名「ホワイトハウスにできた柔道場」

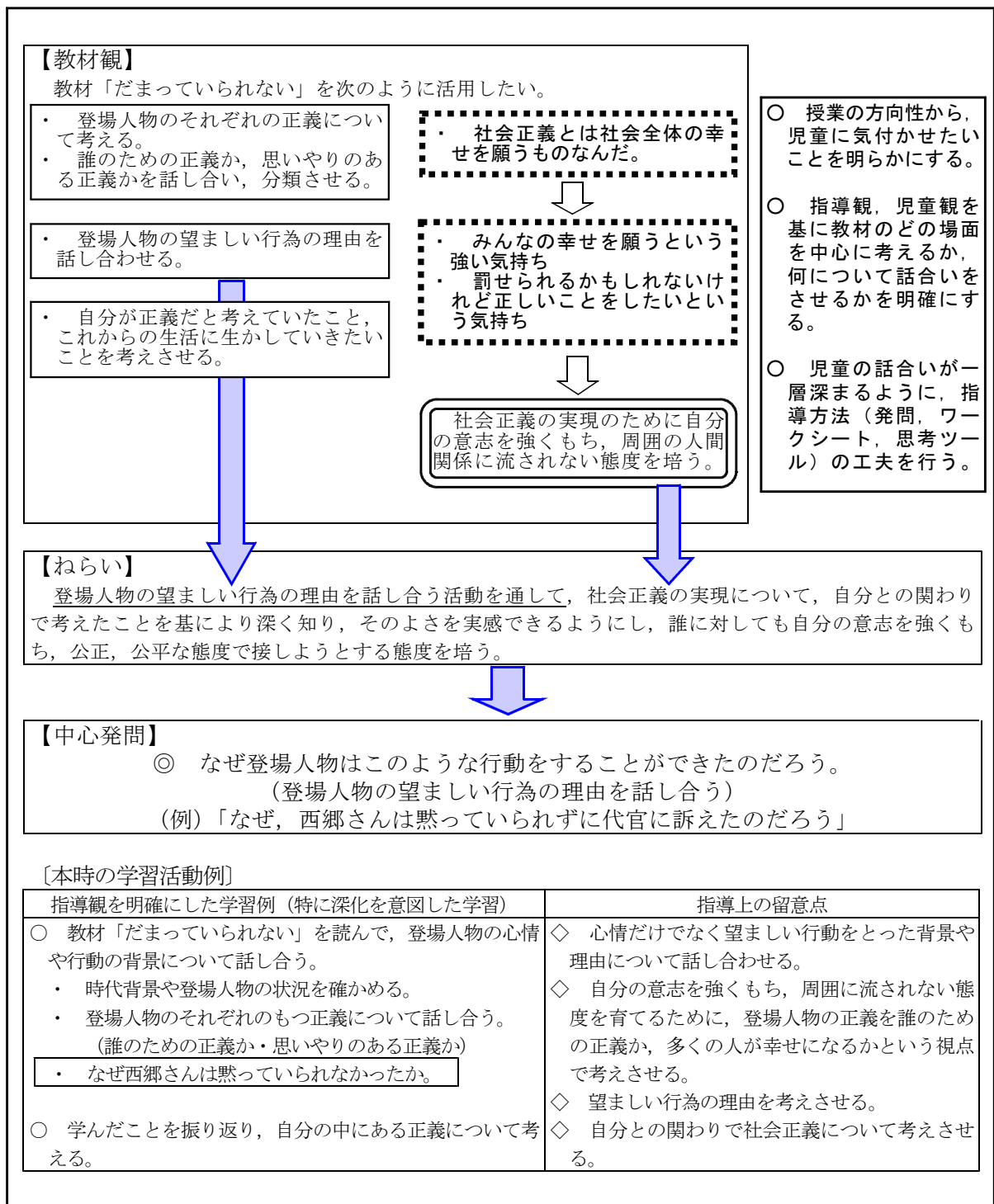
	主な学習活動	教師の働き掛けと授業の実際
導 入	1 外国の人が大切にしているものについて話し合う。	○ 現段階での考えを多く出し合わせることで本時の学習への意欲を高める。 外国の人はどんなものを大切にしていると思いますか。 ・ 平和な国 ・ 世界遺産 ・ 昔の建物 ・ 伝統 ・ 文化 ・ その国の歴史 ・ その国にしかないもの また、それはどの学習で考えましたか。 ・ 社会 ・ 英語の学習 ・ 国宝 ・ 伝統行事 ・ 食べ物
	2 本時で考えていきたい問題を考える。 外国の人も日本の人も大切にしていることは何だろう。	○ 外国の人が文化や伝統を大切にしていることを押さえ、日本人はどうかという問いから問題意識を高める。 外国の人は文化や伝統を大切にしているようですね。日本人はどうですか。
展 開 前 段	3 教材を読んで、主人公の心情、行動の背景や価値の意義について話し合う。	○ 登場人物やあらすじについて簡単に知らせ、教材の内容をある程度理解させておく。
	(1) 柔道を広めようとする主人公の気持ち。 (2) なぜアメリカで柔道が広まったのかを話し合う。	柔道を広めようとしてアメリカに渡った山下さんはどんな気持ちでいるでしょうか。 ・ どうかして柔道を広めたい。 ・ 厳しくすると抗議を受けてしまう。 ・ 分かってほしい。 なぜ、アメリカで柔道が広まったのだろう。グループで話し合ってみましょう。 ・ 山下さんが諦めなかったから。 ・ 山下さんが強かったから。 ・ 大統領が理解してくれたから。 ・ アメリカの人が興味をもってくれたから。

展開 後段	<p>4 学んだことがこれまでの生活や学習のどの場面で考えたことがあったかを振り返る。</p>	<p>○ これまでに各教科等で学習したことから本時の学習に関わることを想起し、まとめる。</p> <p>○ 導入で出された意見も取り上げながら想起させる。</p> <p>これまでの学習や経験の中にも、大統領やアメリカの人たちのように他国の文化を大切にしようという思いをもったことがあったと思います。思い出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の勉強で鹿児島に関係のある国を勉強しました。 ・ 社会の輸入や輸出の勉強も外国と関係があると思います。 ・ 英語の勉強では外国の言葉を大切にしています。 ・ テレビで外国のニュースなども毎日放送されています。
終末	<p>5 学習を通して感じたことや考えたことについて話し合う。</p>	<p>○ 今まで気が付かなかったことや初めて知ったこと、今日の学習で考えたことを発表させる。</p> <p>今日の学習を振り返って、どんなことを考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の国だけでなく他国の文化も大切にすることが大事なことだな。 ・ 他国の文化を大切にするには日本のこともよく知っておかないといけないな。

(3) 明確な指導観に基づく道徳科の授業構想

児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感できるような道徳科授業にするためには、価値観、児童観、教材観を明確にした授業構想をする必要がある。ねらいとする道徳的価値についての明確な考え方（価値観）、ねらいとする道徳的価値に照らした児童の状況と本時に至るまでの各教科等での指導の機会や程度（児童観）、それらを踏まえて、教材をどのように活用しどのような学習を行うか（教材観）を明確にして授業を構想していく。





5 ねらいに迫るための話し合いの工夫

(1) 道徳科授業のねらいについて

授業で話し合いなどの学習活動を設定するとき、それが目的化してしまうことがないように、授業のねらいに即して、適切かどうかを検討した上で取り入れていく必要がある。そのため、本時において何をねらいとするのか、そのためにどのような学習活動を行うのかを明確にする。具体的には、本時の位置付け(「～について補い」、「～を深く知り」、「～をまとめとして捉え」)、育成したい道徳性(「心情を育てる」、「判断力を養う」、「態度を培う」)からねらいを明確にする。そして、そのねらいに迫るための学習活動(「～を通して」)を位置付けることで、中心発問が設定される。

【内容項目「国際理解，国際親善」のねらいの例】

(第6学年 主題名「自国を大切に思う心」 教材名「ホワイトハウスにできた柔道場」)

なぜ，アメリカで柔道が広められたのかという理由を話し合う活動を通して，他国の人々や文化を理解し，日本人としての自覚をもつことについて，自分のこれまでの経験をまとまりとして捉え，そのよさを実感できるようにし，国際親善に努めようとする態度を培う。

【学習活動】

【本時の位置付け(統合)】

【育成したい道徳性】

(2) 道徳科における話し合いの意義

授業に話し合いの活動を取り入れることで，新たな見方や考え方が生み出されたり，自分の考えがより深まったりする。道徳科授業における話し合いは，自分一人では思いもつかなかった新たな見方や考え方が生み出されるという創造的な側面，新しい解決方法を生み出す問題解決的な側面，自分の考えに自信をもったり更に広げたり深めたりする自己形成の側面が考えられる。さらに，言語能力の面では自分の思いや考えを言葉にして伝える力や相手の言葉を聞き取り，なるべく正確に受け止める力も育成できると考える。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うという目標の下で進められる道徳科授業では，話し合いによって多様な考えに触れ，相手を理解し，尊重する心を養うことなど，他者との協調も身に付けることができると考える。

なお，その前提として，道徳科における話し合いは，一つしかない答えを求めるための話し合いではなく，様々な意見や考え方に触れ，それらが認められながら進められなければならない。

(3) 具体的な話し合いの工夫

ア 話し合いの進め方を身に付けさせる工夫

(ア) 教師の働き掛け

児童が話し合いの進め方を身に付け，ねらいに沿った話し合いを進めていくためには，話し合いに教師が積極的に関わり，発言を促したり，理由を尋ねたりするなどの働き掛けが必要である。しかし，目的や方法を理解せずに話し合っても，自分の考えを伝えるだけで，自分の考えに広がりや深まりは見られない。教師が意図的に話し合いを活性化させる言葉を使うことで，話し合いの質を深められるだけでなく，次第に話し合いを活性化させる言葉を児童が身に付け，自分たちで使っていくことができるようになると思う。

【話し合いを活性化させる言葉の例】

- 理由を問う「なぜ～ですか」，「どうして～ですか」
- 問い返し「～ってどういうことですか」，「もう少し詳しく教えて」
- 汎用性を問う「でもさ」，「いつでもそうですか」
- 共通点を見付ける「同じだね」，「似ているところがあるね」
- 相違点を見付ける「どこが違うところかな」，「ここが違うね」
- 言い換え「別の言葉で言うと」
- 確認する「本当にそれでいいのかな」
- 他者の意見を踏まえ，自分の意見を述べる「〇〇さんの考えに加えて，～の考えもあるね」

(イ) 教具の工夫

話し合いの際にキーワードになる言葉をカードにして，授業で活用できるようにする(写真1)。これらを相手に見せたり，ホワイトボード(写真2)に貼ったりしながら話し合いを進めていく。これらの教具の活用によっても，話し合いを活性化させる言葉を児童が習得し，話し合いを深めることができるようになると思った。

他にも低学年の児童が登場人物の気持ちを捉えやすくするために，表情カード(写真3)を使って表現させたり，心情を色で表す心情グラフ，自分の考えがどの位置にあるかを視覚化するネームカードを作成して授業で活用させたりする。

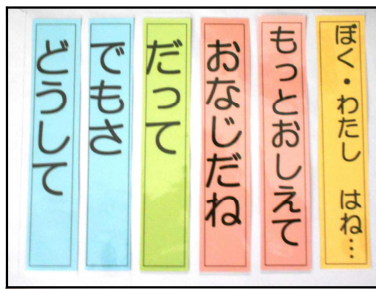


写真1 言葉掛けカード

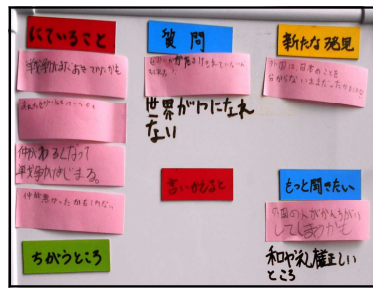


写真2 ホワイトボード

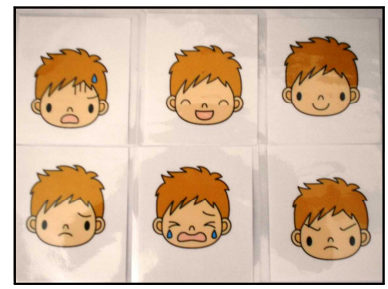


写真3 表情カード

イ 話し合いの視覚化

児童に道徳的価値のよさをより深く考えさせるために、ホワイトボードや様々な思考ツールを活用して話し合いを視覚化することは重要である。児童は、話し合った内容を残すことで、新たに気付いたことや自信をもった考えなどを自覚することができる。教師にとっては、話し合いの進捗状況や深まりの様子を把握することができるだけでなく、更なる問い掛けを行ったり称賛したりするなど、児童の変容を価値付けることができると考える。

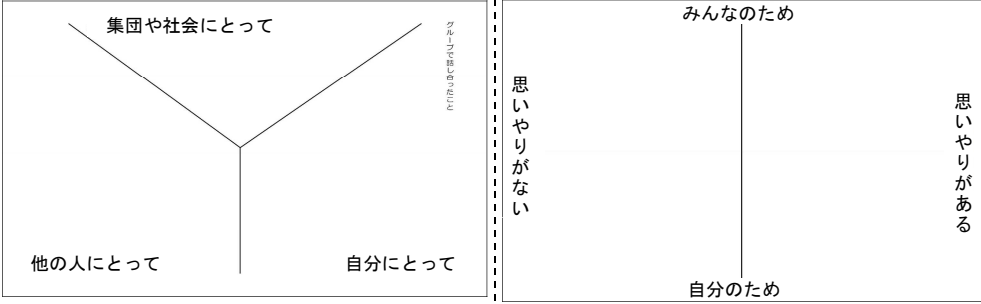
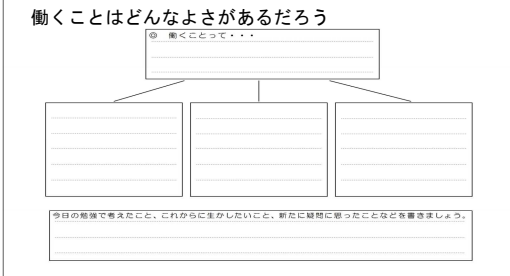
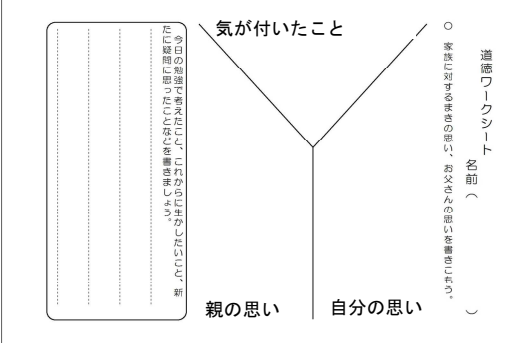
ウ 内容項目ごとの話し合いの工夫


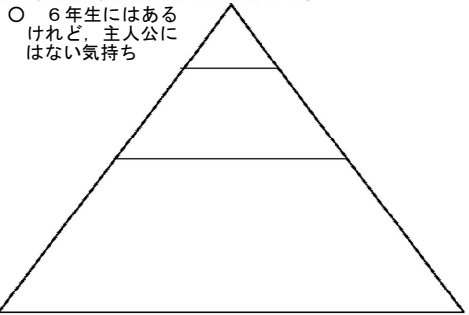
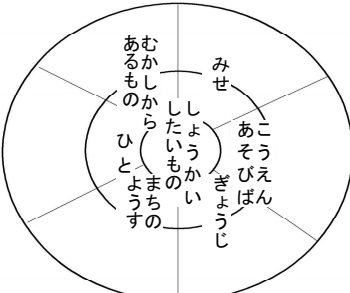
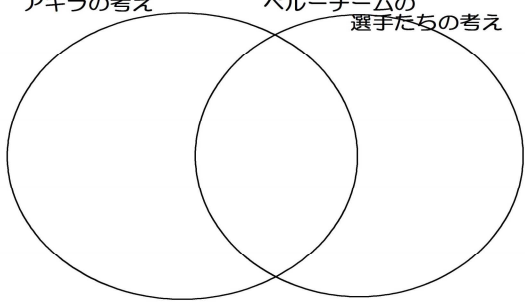
道徳的価値のよさをより深く考えることができるようにするために、内容項目ごとにどのような思考ツールを活用したらよいか、また、個人のワークシートをどのように工夫したらよいかを構想した。内容項目にはそれぞれ指導の要点があり、教材もその要点を踏まえて作られている。道徳的価値の意義を多面的に考えさせるためには「Yチャート」、児童の具体的な経験から抽象的な道徳的価値のよさを考えさせるためには「ピラミッドチャート」、より多くの具体的な事例を出し合わせるためには「ウェビングマップ」や「同心円シート」、共通点を探らせる場合には「ベン図」など、児童に考えさせたい内容に応じて思考ツールを活用する(表1)。

例えば、「公正、公平、社会正義」の内容項目では、公正、公平にすることの意義を自分、他者、社会にとってという三つの側面から考えさせるためにYチャートを活用する。社会正義について考えさせたい場合、座標軸を活用した話し合いも考えられる。登場人物が大切にしたい正義や自分の考えていた正義は座標軸中のどこに位置するのかを話し合わせることで、正義について多面的・多角的に考えることができるようになると思う。また、「国際理解、国際親善」の学習では、ベン図を用いて、日本人と外国人の思いの共通点を話し合わせることもできる。

表1 内容項目の特性と話し合いの内容、ワークシートの工夫例

内容項目	指導の要点		考えさせたい観点	ワークシートの工夫例
規則の尊重	低	きまりの理解、守ろうとする意欲や態度	きまりを守る理由、きまりを守る意義などについて多面的・多角的に考える	<ul style="list-style-type: none"> ○ Yチャートでの分類 ・ きまりの大切さ ・ どんなよさがあるか ・ なぜきまりを守らなければいけないのか
	中	きまりの意義やよさを理解し進んで大切にすることの態度		
	高	遵法の精神、自他の権利を守り義務を果たす態度		
		<p>「Yチャート」</p> <p>きまりを守ることにはどんなよさがあるかを考えさせ、それぞれの考えが「自分にとってのよさ」か「相手にとってのよさ」か「集団や社会にとってのよさ」かを話し合わせる。きまりを守ることの意義を多面的・多角的に考えさせることができる。</p>		

<p>公正，公平， 社会正義</p>	<p>低 中 高</p>	<p>好き嫌いに囚われない公正，公平な態度のよさ 分け隔てのない態度，不公平が周囲に与える影響 断固として許さない態度，社会正義の実現</p>	<p>誰に対しての正義かを分類する 公平な態度のよさを多面的に考える</p>	<p>○ Yチャートでの分類 ・ 公正，公平な態度はどんなよさがあるか ○ 座標軸での分類 ・ 登場人物の考える正義はどの位置にあるか</p>
		<p style="text-align: center;">「Yチャート」</p>  <p style="text-align: center;">公正，公平にするよさを多面的に話し合う。登場人物の考える正義がどの位置にあるかを話し合う。</p>		
<p>勤労，公共の 精神</p>	<p>低 中 高</p>	<p>働くことのよさ，役に立とうとする意欲や態度 働くことの大切さ，進んで働く意欲や態度 勤労の意義，社会奉仕の充実感</p>	<p>具体的な事例から働くことの意義について抽象化する</p>	<p>○ なぜなにシート ・ どんなときにうれしか ・ いい気持ちになるのはどんなときか ・ 働くことのよさは何だろう</p>
		<p style="text-align: center;">「なぜなにシート」</p> <p>働くことのよさを話し合わせる。中央の三つの枠に具体的な事例や自分の考えを記入させる。個人の考えを基にグループで話し合い，上の枠に話し合ったことを記入させる。</p> 		
<p>家族愛，家庭 生活の充実</p>	<p>低 中 高</p>	<p>敬愛の念を育てる，家族の役に立つ 敬愛の念を深め，協力し合って楽しい家庭をつくる 家族から自分に対する思いに気づき積極的に役立つ</p>	<p>家族の思いを多面的に考え，見方を広げる 家族に対するそれぞれの思いを分類する</p>	<p>○ Yチャートでの分類 ・ 家族に対して，どう思っているか ・ 主人公の思い，母の思い，父の思いを書き込もう</p>
		<p style="text-align: center;">「Yチャート」</p> <p>主人公の家族に対する思い，家族から主人公への思いを考えさせ，そこから気が付いたことを話し合わせる。各学年段階で気付かせたい内容である，中学年での「家族に対する敬愛」，高学年の「家族の自分に対する思い」を考えさせることができる。</p> 		



よりよい学校生活、集団生活の充実	低 学校の人々に親しむ，集団での行動の仕方 中 協力し合って楽しく充実した学校生活の構築 高 集団における自分の役割を果たす態度	学校のよいところを見付け考えを広げる 学校への愛着について焦点化する	○ ウェビングマップで考えを広げる ・ 学校の好きなどころ ○ ピラミッドチャートで焦点化する ・ 6年生の思い
<p style="text-align: center;">「ウェビングマップ」</p> <p>○ 水ひき小学校の好きなどころ (こころがふわっとなるところ)</p> 		<p style="text-align: center;">「ピラミッドチャート」</p> <p>○ 6年生にはあるけれど、主人公にはない気持ち</p>  <p>学校の好きなどころを連想して考えを広げさせる。</p> <p>6年生の思いを下段に書かせ、抽象化させながら上段に進め、学校を大切にしている心に焦点化していく。</p>	
伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	低 国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活 中 伝統文化に親しみ，郷土を愛し積極的に関わる態度 高 伝統文化を育む先人の努力を受け継ぎ発展させる	郷土の自然や文化についての項目を手掛かりに具体化する	○ 同心円チャートで郷土の自然や文化を具体化する ・ みんなが住んでいる町で紹介したい所はどこな所ですか
<p style="text-align: center;">「同心円チャート」</p> <p>郷土のよさについて考えさせる際に、視点を与えて考えさせる。それぞれの視点に合わせ、自分の郷土でどのような所を紹介できるかを考えさせる。全体で考えを共有し合い、郷土に親しみ、愛着をもつというねらいに迫らせる。</p>		 <p style="text-align: right; font-size: small;">◎ みんなが住んでいる町で、紹介したい所はどこな所ですか</p>	
国際理解，国際親善	低 他国の人々に親しみ，文化に気付く 中 共通点や相違点，それぞれのよさを感じ取る 高 相互に尊重，日本の人の自覚をもって国際親善	外国の人と日本人の人の思いの共通点や相違点に気付く，それぞれのよさを話し合う	○ ベン図で共通点を見付ける ・ 主人公の思い，外国の人の思いを出し合っ、似ているところを見付けよう
<p style="text-align: center;">「ベン図」</p> <p>外国の人の思いと日本人の思いをそれぞれ左右の円に書き込ませ、共通している点を円が重なっている部分に書き込ませる。話し合わせながら図に表すことで、自国と他国の共通点や相違点に目を向けることができる。</p>		<p style="text-align: center;">アキラの考え ペルーチームの選手たちの考え</p> 	

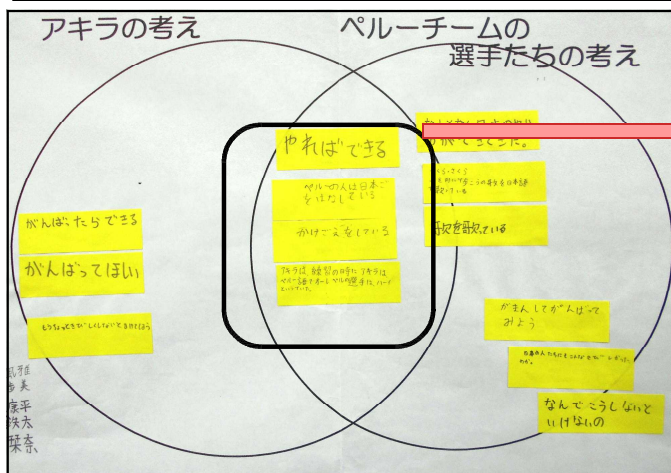
(4) 授業での実践

ア ベン図を用いた話し合いの実践

(第5学年 教材名「ペルーは泣いている」 主題名 国の違いを乗り越えて)

国際理解、国際親善の授業で実践した。話し合いの際は、話し合いの深まりが可視化できるようにベン図を用いた。ここでは、日本人の主人公と外国の人の双方の思いを考えさせた上で、両者の共通点を見付け出すための思考ツールとしてベン図を用いた。共通している考えを円が交わった部分へ移動させることで、アキラとペルーチームの選手たちがもっていた共通の思いを可視化できるようにした。

主な学習活動	教師の働き掛けと授業の実際
<p>教材を読んで、価値の意義について話し合う。</p> <p>(1) アキラ、ペルーチームの選手たちが考えていたことを話し合う。</p> <p>(2) アキラとペルーチームの選手たちの思いの共通点について話し合う。</p>  <p>付箋を貼りながら自分の考えを説明する様子</p>  <p>付箋を動かしながらしながら共通点を探す様子</p>	<p>・ 自分の考えをワークシートと付箋に書かせ、お互いの考えを意見交換させる。その際、共通点についてより考えやすくするためにベン図を用い、話し合いがどのように深まったかを可視化させる。</p> <p>T： アキラが考えていたこと、ペルーチームの選手たちが考えていたことはそれぞれどんなことだろう。</p> <p>[Aグループの話し合いの例]</p> <p>○ アキラが考えていたこと</p> <p>C1： 頑張ったらできる。</p> <p>C2： ペルーの人になろう。</p> <p>C3： ペルーの人にも喜んでほしい。</p> <p>C4： ペルー選手のみみんなも頑張ってもらいたい。</p> <p>○ ペルーチームの選手たちが考えていたこと</p> <p>C1： つらいけど頑張ろう。 C2： 楽しくしよう。</p> <p>C3： 何でもこままでしないといけないの。</p> <p>C4： 日本の歌を歌ってアキラを喜ばせよう。</p> <p>C5： なんとなく日本のやり方が理解できた。</p> <p>T： アキラが考えていたことと、ペルーチームの選手たちが考えたことで、どちらももっていた考えは何だろう。付箋を動かしながらグループで話し合ってみよう。</p> <p>C1： どちらも「声を掛け合っている」、「何とかしてなかなくろう」という気持ちがあると思う。</p> <p>C2： アキラは掛け声などでペルーチームの選手たちに合わせようとしているし、ペルーチームの選手たちは日本の歌を歌っているところが似ているところだと思う。</p> <p>C3： どうまとめようかな。</p> <p>C4： 同じ、うーん、何かな。</p> <p>C5： 「相手の国のことを取り入れようとしている」かな</p> <p>C4： それよさそうだね。</p> <p>C4： どちらも楽しくしたいという気持ちがある。</p> <p>C3： 自分のやり方ばかりをやるんじゃなくて、違う方もやってみるとかかな。</p> <p>C2： それも「心を通わせる」かもね。</p>



【共通点】

「『やればできる』という気持ち」

「ペルーチームの選手たちは日本語で話そうとしている」

「ペルーチームの選手たちは日本の歌を歌っている」

「お互いに声を掛け合っている」

「アキラはペルー語で話し、ペルーチームの選手たちは日本語で話そうとした」

「相手の国のことを取り入れようとしている」

※ 話し合いを進めていきながら、「相手の国のことを取り入れようとしている」ことに気付く、「心を通わせる」という言葉でまとめをするところまで話し合いが深まっていた(写真4)。

写真4 実際のベン図

イ 座標軸を用いた話し合いの実践

(第5学年 教材名「だまっていられない」 主題名 正義の実現のために)

公正、公平、社会正義の授業で実践した。書いたものがそのまま付箋になるようにワークシートを工夫した。登場人物がそれぞれにもっている正義について考えさせ、その正義が、「自分のため」か「みんなのため」か、「思いやりがある」か「思いやりがない」かを話し合わせた。それぞれの考えを座標軸に貼り付けていき、自分の考えがどの位置にあるかを明確にさせた(写真5)。付箋を貼った後も話し合いながら付箋を移動させ、主人公の考える正義について深く考えるなど、グループでアドバイスし合う姿が見られた。

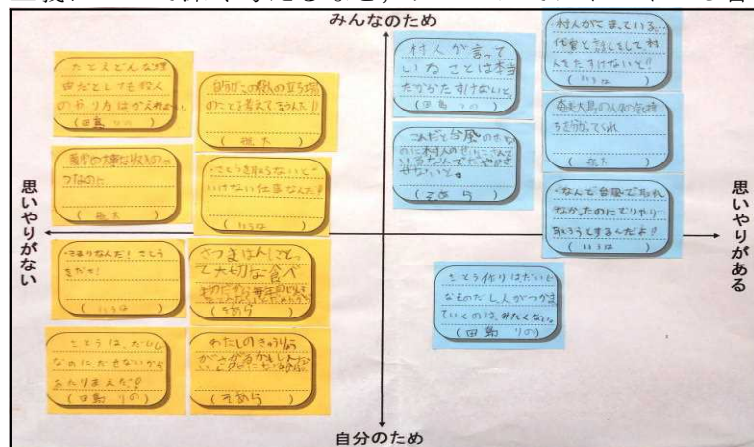


写真5 座標軸に貼り付けた児童の付箋

※ 主人公の考える正義が「自分のため」か「みんなのため」か、「思いやりがある」か「思いやりがない」かを考えさせた。自分が罰せられても正しいことを貫きたい、誰もうそをついていないなど、社会全般の正義について考え、グループでの話し合いを通して深めることができた。その後の主人公の行動を支える思いについても座標軸を基にしてより深く考えることができた。

(5) 話し合いを通じた児童の変容の見取り

指導の意図を明確にし、具体的な話し合いの工夫をすることによって、児童はそれぞれの考えを深めることができる。児童は話し合いを通して、各教科等の学習との関連に気付いたり、今までもっていた自分の考えに自信をもったり、他者の考えを新たに獲得したり、これからの生活に向けて新たな課題を見付けたりする。教師がそれを認めたり称賛したりして価値付けることで、児童は、自らの成長を実感できると考える。児童に自らの成長を気付かせるための手立てとして、図11のように道徳科授業の始めに、本時で学習する道徳的価値について、現在どのような初めの考えをもっているのかを書かせる。初めの考えと、教材を通して考えたり友達と話し合ったりした後の考えが1枚のワークシートに書かれていれば、一目で自分の成長の過程を捉えることができると考える。教師も一人一人の児童の変容の過程を把握し、児童の気付きへの価値付けに生かすことができる。

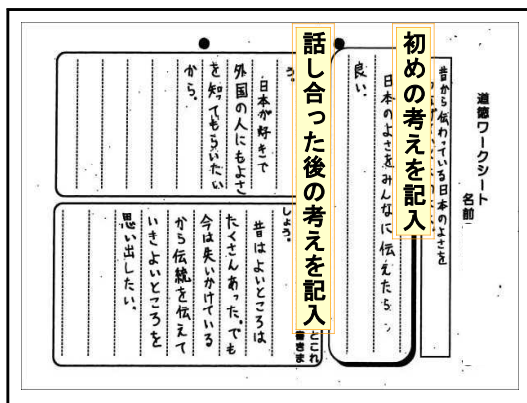


図11 変容を見取るワークシート

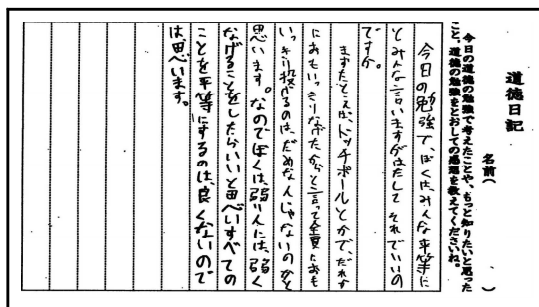


図12 道徳日記

また、道徳科授業の後に道徳日記を書かせるようにする。道徳日記は、図12のように道徳授業の感想、新たに気付いたことや疑問に思ったことなど、内容に制限を設けず自由に記述させる。児童は記入しながら道徳科の授業を振り返り、自分自身の成長を実感することができ、教師は児童の記述を基に、価値付けの言葉掛けをしたり、児童の評価や授業改善に生かしたりできると考える。

6 検証授業による研究の検証

各教科等の学習との関連を図ることと、ねらいに迫る話合いの工夫について、表2のような検証の視点を設定し、検証授業を行った。

表2 検証授業の構想

検証の視点		検証内容
視点1	各教科等の学習との関連を図った 道徳科授業	ア 各教科等との関連を図った道徳科の学習活動 イ 明確な指導観に基づく道徳科授業構想
視点2	ねらいに迫るための話合いの工夫	ア 授業のねらいと中心発問の在り方について イ 具体的な話合いの工夫

(1) 検証授業Ⅰについて

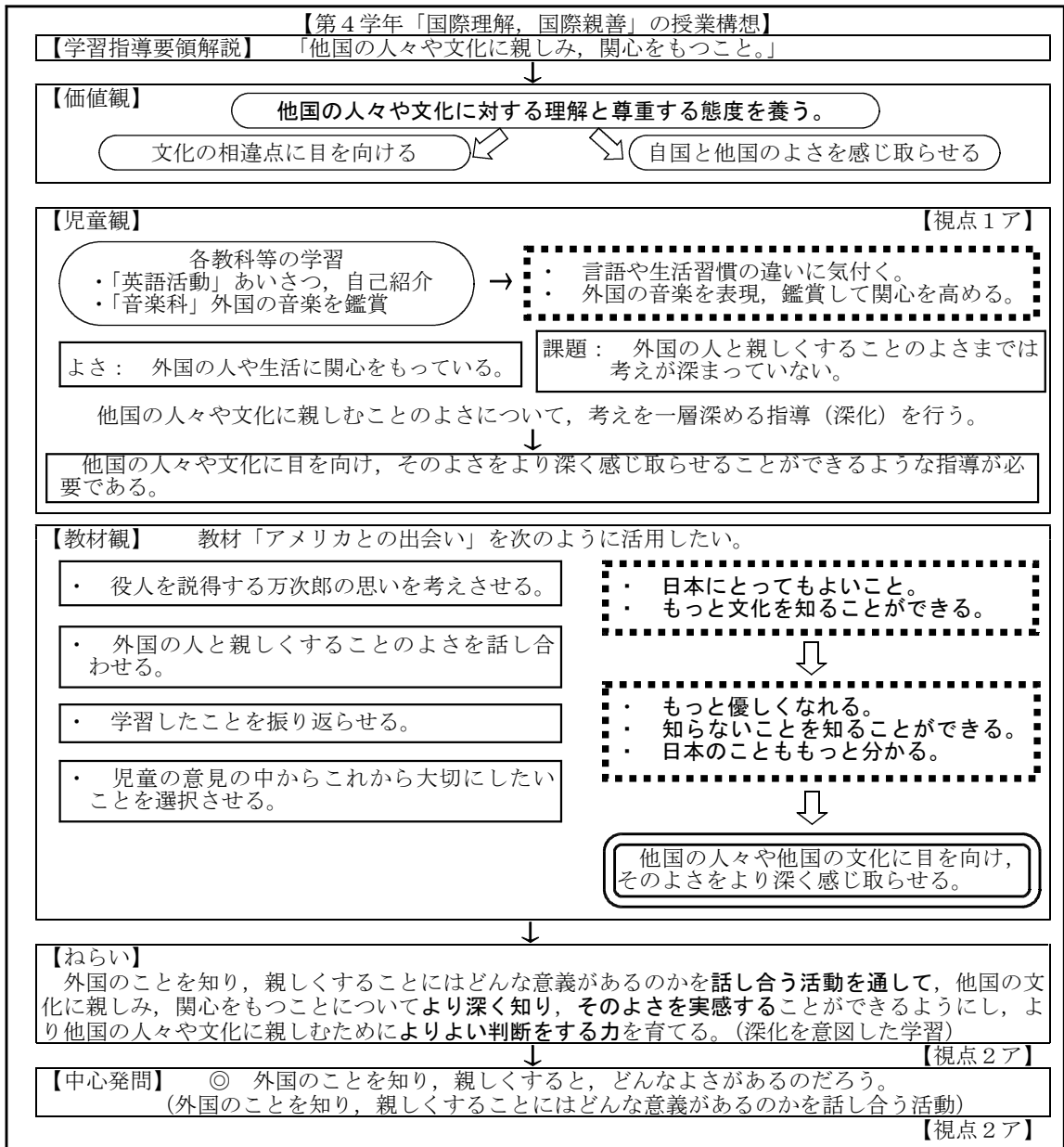
ア 検証授業Ⅰのねらい

児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感するための授業構想と手立てについて次の点を中心に検証した。

- (ア) 各教科等の学習との関連を図った道徳科授業の学習過程とねらいについて検証する。
 (イ) ねらいに迫るための話合いの在り方と教師の働き掛けについて検証する。

イ 検証授業Ⅰの授業構想

- (ア) 各教科等の学習との関連を図った道徳科授業の学習過程とねらい
 指導の意図を明確にして本時のねらいと中心発問を次のように設定した。【視点1イ】



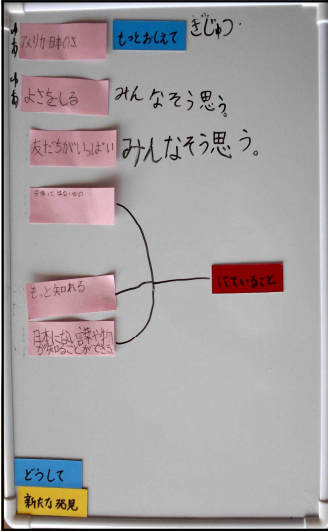
本時は深化を意図した学習と位置付けた。展開前段において道徳的価値のよさについて話し合う活動を設定し、自分がこれまでもっていた価値観と新たな価値観の中から、これから更に自分の中に取り入れていきたい価値観を選択する活動を設定した。また、展開後段においては、新たに気付いた価値観や自信をもった価値観について自分との関わりの中で考え、そのよさを実感できるようにした。

(イ) ねらいに迫るための話し合いの在り方と教師の働き掛け

外国のことを知り、親しくすることのよさを話し合うことで、ねらいとする価値に迫ることができるようにしていった。具体的には、登場人物の行動から、外国のことを知り、親しくすることにはどんな意義があるのかを考えさせ、話し合わせた。ホワイトボードを活用して話し合いを視覚化し、お互いに理由を聞いたり、共通点や相違点を見付け出したりしながら話し合いを深めさせていった。また、自分自身がこれから大切にしたい考えを選択し、その理由を考えさせることで、今まで気付かなかった新たな考えを取り入れたり、初めの考えに更に自信をもったりして、自らの成長を実感できるようにした。【視点2イ】

ウ 本時の実際

(第4学年 教材名「アメリカとの出会い」 主題名 外国のよさを知って)

過程	主な学習活動	教師の働き掛けと検証の実際
展開前段	<p>3 教材「アメリカとの出会い」を読んで、主人公の心情や行動の背景、価値の意義などについて話し合う。</p> <p>(1) アメリカの文化を説得する万次郎はなぜ、多くの人の心を動かしたのだろう。</p> <p>(2) 他国の人々や文化に親しむことのよさを話し合う。</p>  <p>写真6 ホワイトボード</p>	<p>○ ワークシートに自分の考えを、付箋にキーワードを書かせて小グループで話し合わせる。</p> <p>○ 小グループでの話し合いはホワイトボードに付箋を貼り、言葉掛けカードを使いながら児童同士で話し合いができるようにする。</p> <p>○ 付箋や言葉掛けカードによって話し合いがどのように深められたかを可視化させ、自分たちの話し合いを振り返らせる。</p> <p>○ 似ている考えをまとめたり、相互に質問したり、新たな発見をホワイトボードに記入したりできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>外国の人々と仲良くすることでどんないいことがあるだろう。〔中心発問〕</p> </div> <p>〔Aグループの例〕</p> <p>C1： 相手のよいところを知ることができる。</p> <p>C2： いろいろな人と触れ合える。</p> <p>C3： 日本にないことを教えてくれる。</p> <p>○ 教師はグループごとに言葉掛けをしながら考えを深めさせる。</p> <p>〔Aグループへの教師の関わり〕</p> <p>T： もっとないかな。相手のことだけでいいの？</p> <p>C1： 仲良くすることで自分たちも日本のことをもっと知ることができる。</p> <p>T： 触れ合うとどんなことに気付くかな。</p> <p>C3： 外国と日本の違い。</p> <p>T： 違いを知って外国の人と接すると、どんな気持ちになれるかな。</p> <p>C3： 違いがあることを知ると、相手のことを理解してもっと優しくなれる。</p> <p>○ 付箋や言葉掛けカードによって、話し合いがどのように深まったかを可視化させる（写真6）。</p>

	<p>(3) 今までもっていた外国の人々と仲良くすることへの思いも踏まえ、これから更に大切にしていきたいことを話し合う。</p>	<p>○ 道徳的判断力を育成するために、今までもっていた価値観と新たに気付いた価値観の中から、これから更に大切にしていきたい価値観を選択させ、その理由も考えさせる。友達の意見を聞いて、新たに自分に取り入れたい考えを見付けたり、自分ももっていた考えに自信をもったりできるようにする。</p> <p>[全体での共有] T： それぞれのグループでどんな考えが出されましたか。 ○ グループでの話し合いを学級で共有する。 C： 外国だけでなく日本のことをもっと知ることができる。 C： どちらも豊かになる。 C： 相手のことを理解してもっと優しくなれる。 C： 相手のよいところをもっと知ることができる。</p>
<p>展開後段</p>	<p>4 学んだことを振り返り、考えたことやこれからの生活に生かしたいことについて話し合う。</p>	<p>○ 今まで気が付かなかったことや初めて知ったこと、今日の学習で考えたことを発表させる。</p> <p>T： みんなの意見から、これから大切にしたいことはどのようなことですか。 ○ 初めにもっていた価値観と新たに気付いた価値観から、これから大切にしていきたい価値観を選択させ、その理由も考えさせる。 ○ 友達の意見から、新たに取り入れたい考えを見付けたり、初めの考えに自信をもったりできるようにする。 C： ○○さんの発表から、外国の人のことを知ることでもっと優しくなれるということに気付きました。 C： 自分の初めの考えだった相手のよいところをもっと知ることができるということをこれからも大切にしたいです。</p>

エ 検証授業Ⅰの成果と課題

<p>(ア) 各教科等との関連を図った道徳科授業の学習過程とねらいについて</p>	
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補充、深化、統合の位置付けとそれに関わるねらいを明確にすることで、指導の意図から逸れることなく学習を進めることができた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の学習との関連を図り、道徳科で補充、深化、統合するためには、学習内容を更に明確にした上で、意図的な指導や日常の言葉掛けが必要である。
<p>(イ) ねらいに迫るための話し合いの在り方と教師の働き掛けについて</p>	
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の学習との関連を図ったねらいの設定により、児童が話し合いをする中心発問が明確になった。また、ホワイトボードや言葉掛けカードなど教具の工夫を行い、話し合いの深まりを視覚化できるようにした。児童は話し合いの跡を見ることで新たな考えを知ったり、自分の考えを再構成したりすることができた。教師は、他のグループに関わった後でも、どのような話し合いが行われたかを把握し、適切な言葉掛けをすることができた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が積極的に話し合いに関わり、教師からも質問や問い返しなどを行うことで、児童の考えを深めることができた。また、児童は話し合いを活性化させる言葉を学び、自分たちで話し合いを進めることができるようになった。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が自分自身の考えをもつためには、各教科等での学習や日常生活の様々な体験が基になる。日常的な指導と道徳科授業を関連付けるために、別葉の見直し等の具体的な手立ての検討が必要である。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年段階や内容項目に応じた教師の働き掛け（発問、教具等）から、話し合いがどのように深まっていくかを更に検討したい。

(2) 検証授業Ⅱについて

ア 検証授業Ⅱのねらい

検証授業Ⅰの課題からの改善点を踏まえ、児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感するための授業構想と手立てについて次の点を中心に検証授業を行った。

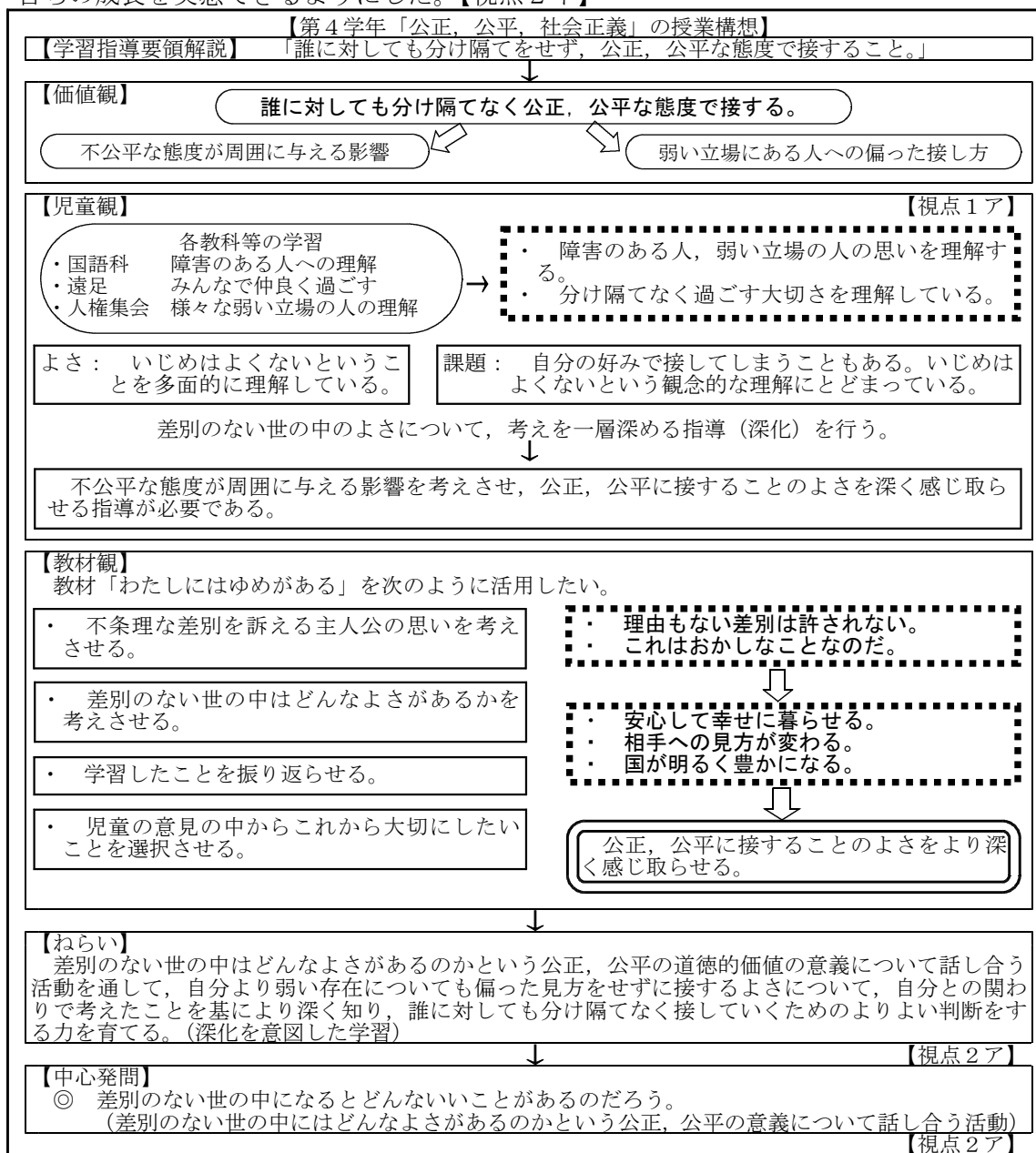
- (ア) 自らの成長を実感するための各教科等の学習との関連の図り方について検証する。
 (イ) 内容項目や中心発問に応じた話合いの在り方について検証する。

イ 検証授業Ⅱの授業構想

- (ア) 自らの成長を実感するための各教科等の学習との関連の図り方について

本時のねらいは、指導の意図を明確にして下のよう設定した。【視点1イ】

展開前段において人種差別の理不尽さに気付かせ、反対運動を進める主人公を支えた思いについて考えさせた。そして、「差別のない世の中になるとどんないいことがあるか」という公正、公平の価値の意義について話し合う活動を設定した。自分がこれまでもっていた価値観と新たな価値観の中から、これから更に分の中に取り入れていきたい価値観を選択する活動を設定した。また、展開後段においては、新たに気付いた価値観や自信をもった価値観について自分との関わりの中で考え、導入時の自分の考えと比較することで自らの成長を実感できるようにした。【視点2イ】



各教科等の学習との関連については、主に導入段階と展開後段の振り返りの段階で、これまでの学習経験を意図的に児童に働き掛けた。「いじめ問題を考える週間」を想起させたり、遠足の際の諸注意、体育科授業や運動会での教師の説話について、机間指導の中で個別に語り掛けたりしながら今までの自分を振り返らせた。【視点1ア】


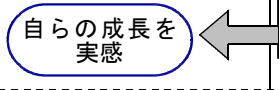
(イ) 内容項目や中心発問に応じた話合いの在り方について

公正、公平、社会正義という道徳的価値を実現させることでどのようなよさがあるのかを中心発問にして考えさせた。そして、それぞれの考えについて、自分にとって、他者にとって、集団や社会にとってのよさに分類し、自分のもっていた価値観を深めたり広げたりする話合いをさせた。さらに、グループ内で広がりが見られない対象について話合いを通して新たに生み出していくように働き掛けた。【視点2ア、イ】

ウ 本時の実際

(第4学年 教材名「わたしにはゆめがある」 主題名 差別のない世の中に)

過程	主な学習活動	教師の働き掛けと検証の実際																				
導入	1 日常生活場面から、弱い立場にあると考えられる人はどのような人がいるか話し合う。	<p>○ 人権集会で学んだことを想起させ、本時の学習の方向付けをする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>教科</th> <th>単元・題材</th> <th>内容項目に関連したねらい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9</td> <td>国語</td> <td>調べたこと整理して発表しよう ○、誰もが関わり合えるように</td> <td>障害のある人への理解やお互いに支え合う態度を育てる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>体育 行事</td> <td>楽しい運動会 小中合同運動会</td> <td>運動が得意な児童も苦手な児童も、お互いに差別や偏見をせずに認め合う。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体育 行事</td> <td>秋の一日遠足</td> <td>分け隔てなく誰とでも楽しく過ごすことができる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生活</td> <td>人権集会 校区総合文化祭</td> <td>人権や差別について知り、発表や鑑賞を通して差別や偏見のないお互いのよさを認め合う心構えを育てる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>【往還シート(一部)】</p>	月	教科	単元・題材	内容項目に関連したねらい	9	国語	調べたこと整理して発表しよう ○、誰もが関わり合えるように	障害のある人への理解やお互いに支え合う態度を育てる。	10	体育 行事	楽しい運動会 小中合同運動会	運動が得意な児童も苦手な児童も、お互いに差別や偏見をせずに認め合う。	11	体育 行事	秋の一日遠足	分け隔てなく誰とでも楽しく過ごすことができる。	12	生活	人権集会 校区総合文化祭	人権や差別について知り、発表や鑑賞を通して差別や偏見のないお互いのよさを認め合う心構えを育てる。
	月	教科	単元・題材	内容項目に関連したねらい																		
9	国語	調べたこと整理して発表しよう ○、誰もが関わり合えるように	障害のある人への理解やお互いに支え合う態度を育てる。																			
10	体育 行事	楽しい運動会 小中合同運動会	運動が得意な児童も苦手な児童も、お互いに差別や偏見をせずに認め合う。																			
11	体育 行事	秋の一日遠足	分け隔てなく誰とでも楽しく過ごすことができる。																			
12	生活	人権集会 校区総合文化祭	人権や差別について知り、発表や鑑賞を通して差別や偏見のないお互いのよさを認め合う心構えを育てる。																			
展開	2 本時で考えたい問題について、話し合う。	<p>○ 主体的に学習に取り組むことができるように一人一人に問題意識をもたせ、自分なりの考えを記入させておく。</p>																				
	3 教材「わたしにはゆめがある」を読み、問題場面について話し合う。 ・ 公正、公平な態度のよさについて話し合う。	<p>○ 公正、公平にするよさを話し合わせ、Yチャート(写真7)にまとめる。</p> <p>差別のない世の中になるとどんないいことがあると思いますか。話し合って仲間分けをしましょう。[中心発問]</p> <p>[Aグループの話合い] C1: 国って書いてあるものは全部「社会にとってのよさ」でいいかな。 C2: 国が楽しくなる、国が明るくなる、国が豊かになる。どれもいいことだし、それでいいね。 C3: 「相手の見方が変わる」ってあるけど、これはどういうことかな。 C4: 差別がなくなれば、相手のいいところを見付けられるのではないかなということ。 C3: それは「相手にとってのよさ」でいいね。 T: 付箋がないところは、何もないのかな。 C2: 「自分にとってのよさ」がないね。何かないかな。 C4: 差別がなかったら自分はどう思うだろう。 C3: 楽しくなるかな。自分にとっても楽しくなるでいいんじゃないかな。</p>																				
前段	<p>道徳的価値のよさを理解</p>  <p>他の人にとって 「相手の見方が変わる」 に対する質問、返答など児童相互に意見を交流している様子が見られた。</p>	<p>写真7 グループで作ったYチャート</p>  <p>集団や社会にとって 国が楽しくなる、国が豊かになるなど、国に関するものは、集団や社会にまとめようという話合いが展開された。</p> <p>自分にとって 初め、付箋がなかったの、何かないか働き掛けた。児童は「自分はどう思うか」と問い掛けながら楽しく過ごせるという考えを導きだした。</p>																				

展 開 後 段	<p>4 学んだことを振り返り、これからの生活にどのように生かせるか考える。</p> 	<p>○ 導入時に記入した考えと比較させ、自分自身の変容や成長を実感させる。</p> <p>〔各教科等との関連を図った教師の言葉掛け〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの意見から、今まで思い付かなかったけどそれはいい考えだなという考えがあったら、自分のものにしていただければいいですね。 ・ 分け隔てしないということについては、今までも、<u>いじめ問題を考える週間や、遠足で遊んだりお弁当を食べるときに「一人ぼっちを作らない」</u>など毎日の勉強を通しても考えてきています。 ・ そのような<u>毎日の学校で勉強している</u>ことも思い出しながら書いてけるといいですね。 <p>【児童のワークシートから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学習で自分が差別されたらいやだなと思ったけど、みんなの心を考えることも大事だと分かりました。 [新たな考えの獲得] ・ 相手を思う心だけでなく、相手の見方を変えてみるといいと思います。 [自信をもつ] ・ 差別をしていた側の人や別の国の人はどう思っているのかを知りたいです。 [新たな課題]
		

エ 検証授業Ⅱの成果と課題

(ア)	自らの成長を実感するための各教科等の学習との関連の図り方について
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別業を更に詳しくした往還シートを作成したことで、より具体的に各教科等の学習での言葉掛けや内容項目と関連した問い掛けを行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科の学びを各教科等の学習にどのように生かしていくか、往還シートの活用について更に検討する必要がある。 ・ 自らの成長を実感する児童に対する価値付けをどのように行っていくか、今後も検討が必要である。
(イ)	内容項目や中心発問に応じた話合いの在り方について
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容項目の分析から、中心発問や話合いの視覚化の工夫を行った。自分の考えをもち、視覚化しながら友達の考えと練り合うことで道徳的価値のよさについての理解を深めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容項目の追究を更に深めるための発問を検討するとともに、発達段階に応じた話合いの在り方や、視覚化の工夫について検討する必要がある。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- 児童の実態を捉え、補充、深化、統合を意識して授業づくりをすることで、ねらいが明確になり、指導の意図から逸れることなく学習を進めることができた。
- 別業を見直し、各教科等での具体的な働き掛けを入れた往還シートを作成したことで、各教科等と道徳科授業での学習との関連付けを図ることができた。
- 補充、深化、統合の観点からねらいを設定し、指導の意図を明確にして児童が話合いを行う中心発問を設定したことで、児童は道徳的価値のよさを理解するとともに、自らの成長を実感でき、教師も児童の変容を見取ることができた。
- 話合いの工夫としてその過程をホワイトボードや言葉掛けカード等の教具を用いて視覚化したことで、児童は自分自身の成長を実感し、教師は個に応じた言葉掛けをすることができた。また、この取組は、児童の変容の見取りにも生かすことができた。

2 今後の課題

- 各教科等の学習を生かすことができたが、カリキュラム・マネジメントの視点も取り入れながら、各教科等と道徳科授業での学習が往還するような指導計画の作成を、今後も進めていきたい。
- 各教科等の学習との関連を図った指導がより効果的に行われるような指導計画の見直しも考えていきたい。
- 話合いの視覚化について検証を進めた。学年段階での話合いのさせ方、活用する思考ツールなどについて更に検討していきたい。

【 参考文献 】

- | | | | |
|---------------------|---|---------------------------------|---------|
| ○ 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 | 平成29年 | 廣済堂あかつき |
| ○ 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説 総則編』 | 平成29年 | 東洋館出版社 |
| ○ 文部科学省 | 『小学校学習指導要領』 | 平成29年 | 東洋館出版社 |
| ○ 文部省 | 『小学校指導書 道徳編』 | 平成元年 | 大蔵省印刷局 |
| ○ 鹿児島県総合教育センター | 『「考え、議論する道徳科」指導力向上講座』
『研究紀要 第122号』
変わる！道徳教育「考え、議論する道徳科」への転換
『指導資料 道徳第32号』
「考え、議論する道徳」の授業構想のポイント | 平成30年

平成30年

平成29年 | |
| ○ 赤堀 博行 著 | 『「特別の教科道徳」で大切なこと』 | 平成29年 | 東洋館出版社 |
| ○ 田村 学 編著 | 『カリキュラム・マネジメント入門』 | 平成29年 | 東洋館出版社 |
| ○ 赤堀 博行 著 | 『これからの道徳教育と「道徳科」の展望』 | 平成28年 | 東洋館出版社 |
| ○ 新宮 弘識 著 | 『道徳授業ハンドブック 3』 | 平成28年 | 光文書院 |
| ○ 関西大学初等部著 | 『関大初等部式思考力育成法ガイドブック』 | 平成27年 | さくら社 |
| ○ 田村 学 著
黒上 晴夫 著 | 『考えるってそういうことか！「思考ツール」の授業』 | 平成25年 | 小学館 |
| ○ 全国道徳特別活動研究会 著 | 『道徳・特別活動の本質－青木理論とその実践－』 | 平成24年 | 文溪堂 |
| ○ 赤堀 博行 著 | 『心を育てる要の道徳授業
－補充・深化・統合へのアプローチ－』 | 平成22年 | 文溪堂 |
| ○ 行安 茂 著 | 『道徳教育の理論と実践－新学習指導要領の内容研究－』 | 平成21年 | 教育開発研究所 |
| ○ 瀬戸 真 編著 | 『これからの道徳教育』 | 平成61年 | 教育開発研究所 |
| ○ 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会 | 『道徳の教育No51』 | 平成30年 | |
| ○ 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会 | 『道徳の教育No50』 | 平成29年 | |
| ○ 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会 | 『道徳の教育No49』 | 平成28年 | |
| ○ 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会 | 『第41回 九州地区小学校道徳教育研究大会鹿児島大会
研究紀要』 | 平成27年 | |
| ○ 出水地区道徳教育研究会 | 『平成25年度 鹿児島県小学校道徳教育研究大会出水大会
研究紀要』 | 平成26年 | |
| ○ 薩摩川内市小学校道徳教育研究会 | 『平成24年度 鹿児島県小学校道徳教育研究大会川薩大会
研究紀要』 | 平成25年 | |
| ○ 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会 | 『第33回 九州地区小学校道徳教育研究大会鹿児島大会
研究紀要』 | 平成19年 | |

長期研修者 [田村 敏郎]

担当所員 [中熊 信仁]

【研究の概要】

本研究は、各教科等との関連を図り、ねらいに迫る話合いの工夫を通して、児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳科授業の在り方について研究したものである。各教科等の学習との関連を図るために、より実効性をもたせた別葉の改善や、補充、深化、統合の学習活動を設定し、それに応じた中心発問の在り方について明らかにした。ねらいに迫る話合いの工夫については、ホワイトボードや思考ツールを活用することで、話合いの視覚化による効果を検証した。その結果、児童は自分たちの考えが深まっていくことを実感することができた。また、自分との関わりで捉えている児童や多面的・多角的な見方をしている児童も把握しやすくなり、評価にも生かすことができた。本研究を通して、道徳的価値のよさについて話し合い、他者の意見を取り入れたり自分の考えに自信をもったり、新たな課題をもったりして、自らの成長を実感する児童の姿が見られるようになった。

【担当所員の所見】

平成30年4月から、小学校では道徳が「特別の教科道徳」（道徳科）としてスタートした。まさしく、その道徳科元年に、本研究は行われた。

その意味でも時機を得た研究であるとともに、別葉は作ったけれど、十分活用されていないことや「考え、議論する」道徳科にするために、話合いを充実させたいのだけれどうまくいかないときがあるという誰もが感じている課題を解決するために研究を深めた点に意義が見られる。

検証結果からも、より実効性のある別葉の往還シートを作成、活用し、各教科等との関連を図り、中心発問を吟味し、ねらいに迫る話合いの工夫をしていくことによって、児童は道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感していくことが分かった。

しかし、よりよく生きるための道徳性を養うことは、一朝一夕には成就しないものである。今回、田村教諭は、全学年で道徳科の授業を行ったが、そのことも実感できたであろう。

今後、更なる課題意識をもち、教児共に笑顔が溢れる道徳科の授業を追究していくことを期待する。